

刊夕 日九十月二



定価 一月五拾圓 三月一拾五圓 半年二拾五圓 一年四拾五圓
 廣告料 五拾圓 十拾圓 二十拾圓 三十拾圓 五十拾圓 六十拾圓 七十拾圓 八十拾圓 九十拾圓 一百拾圓
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐警報社 印刷所 常磐警報社
 電話 六二〇〇
 印刷所 常磐警報社 印刷所 常磐警報社

常磐炭田の開発と

片寄平藏

〔十〕

山口 彌一郎

6 血統及び性格
 子孫 村役場 増家寺院其の他にて詳細の調査を試みたが他國よりの移住たし者であり祖先に就いては不明の點が多い。確實と認められる事項は次の如くである。
 祖父に當る利兵衛の代に越後國蒲原郡稻荷岡より福島縣磐城國(現在の石城郡)大森村乙二番地に移住、後土地の名義變更により狐塚村字沼田一六三番地となり現在石城郡大浦村大字狐塚字沼田一六三番地となつてゐる。

利兵衛實子なく弟忠次郎を子として家督を相續せしめた。忠治郎には男の子がなかつた爲め長女タカに長兄庄兵衛の子平藏を聲として家督を相續せしめた。平藏には利太郎、平左衛門、長女のふの三人の子がある。長男利太郎が家督相續人に見立て、次男平左衛門は江戸の材木店乙の字大坂屋へ見習奉公させ、のぶは分家相續人片寄勇五郎の妻となつた。然るに相續人である

利太郎が安政二年正月二日死去し長男唯助があつた。即ち次男平左衛門を江戸より呼び戻し利太郎の妻と取り合せ唯助の父とした。尙ほのぶの嫁した勇五郎も松前へ下り南部大間箱館より渡航中難風に逢ひ死亡し井橋祐右衛門の子利兵衛を聲に入れた。長男を安太郎次男を平藏と言ふ。平藏磐前郡湯本村二一八葉谷卯兵衛の養嗣子となり葉谷を名のつてゐる。平藏の血統を繼ぐ生存者中の最年長者で調査に種々助力を與へられた。本

【晝】焼魚：あらまき鮭
 【晚】カツレツ：鶏肉サラ
 野菜 マヨネーズ

家を繼いだ唯助は子なく二郎は養嗣子である。唯助の妻ゆきは現存してゐる。彼の性格として窺はれるのは俊才で豪商人の氣概があり、稍々ともすれば商人の常とも言ふべきことであるが投機に走る傾向を持ち

美味で！
 評判の……

イワキ
 サロン

電 352

外科

門 專
 科 線 光 X

上田外科醫院

平町南町
 電話二一九番

江戸前料理食堂

錦水自慢の料理を始めました

大和漬 志きやき
 鬼から くそく煮

御試食下さい

錦水

電 四 五 四 番

門 專

産 婦 科
 人 科
 花 柳 病 科

◎入院隨意

井坂醫院

平町田町 電話五五九番

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町

大和田醫院

(電話一七〇番)

◎本會は!!
 篤實老練なる看護婦を急派の御命に應じます

平看護婦會

會長 清野 キヨ
 電話三〇七番

尙ほ御希望に依り
 ● 輕い御病人の附添ひや
 ● 妊婦産婦の御家庭に
 ● 婆や又は見習婦を
 ● 經濟的に
 □御世話致しますどうぞ御用命下さい。

事務所新設ニ付御披露

啓拜 毎々格別ノ御引立御援助ヲ賜リ奉深謝候
 陳者今回業務擴張ノ爲メ募集事務所ヲ新設其主任トシテ不肖が拜命致シ候ニ就テハ今後共相變リマセズ御聲援御鞭撻ノ程重テ御願申上候 敬具

有給外務員數名募集

經驗ノ有無ヲ問ハズ奮闘家ヲ望ム
 固定給ノ外旅費支給ス。希望者ハ履歷書持參來所ヲ乞フ

明治生命保險株式會社

平地方募集事務所

主任 小野 勝康

(長 吉)
 平町仲町二四

耳鼻咽喉科専門

鈴木醫院

醫學士 鈴木 正男

平町田町(電話五八番)

自炊のお需めに應ず
 入院の便あり
 藤田女學校前

月曜是非

十三日會を惜む

平町に於ける唯一の智識交換機關である十三日會を存続するか廢止するか、今晚の幹部會に於いてその運命が決められるといふ。

同會を廢止する理由は毎月聴衆が甚だしく講師に對しても面目ない様な場合がある——これは各種團體主催の講演會が盛んに催され又一方ラヂオの普及に依つて知名の士の講演が自由に聴ける等の關係に基くものであり、時代は「十三日會」存在の必要を感じなくなつたといふにある。

而して世話役間に此の念慮を抱かしむるに至つた動機に就いて巷間傳ふる處に依れば、彼の小檜山警中校長に、赴任早々、その教育上に於ける識見を聞かんとして一席煩した際、聴衆が曉の星の如く少なかつた事に起因する模様である、當時同校長は「新任早々自分が第一聲を放たんとするに當り、斯くの如く僅少な聴衆である事は、自分を侮辱するも甚だしい」と威猛高になつて壇上で憤慨したといふ事である。

小檜山校長は自校に於ける新任最後の保護者會の席上で「成績の悪い生徒は、將來の見込みがないのであるから、退學させて終へ！」と豪語して父兄の心膽を寒からしめた人である、縣下第一の試験難關を以つて

される警中校の受験地獄を突破し、完全にゴール入りをした警中生は、云ふ迄もなく選まれた秀才揃へである、其後の成績が若し香しくない様な事があれば、時には家庭にのみその罪を負はしむべきでなく、その責の一半は學校も負はなければならぬであらう、然るに「退學させよ！」とは何を云ふか、是れが子弟を懐ふ師父としての温情ある言葉であらうかどうか。

斯かる無責任の放言を敢えてする警中校長がどの程度の頭腦者であり、且つ此の程度の頭腦者がどんな話をするかを測定するに、社會の神經は決して鈍感でない、従つて當日の十三日會講演に、聴衆の数の少なかつたのは當然である、夫れを反つて「自分を侮辱する」と壇上で啖呵を切つた校長は自己を知らざるものであり、自惚れも甚だしいといはねばならぬ。

く敬慕され、今日と雖もその遺徳の喧傳されつゝある地方稀れに見る人格高尚な教育者である、十三日會は或意味に於いて桐谷氏の殘した精神的な形身であり、爾來平町の精神文化の向上に貢献した力は決して渺くない、ラヂオの發達や團體の諸會合は成程一般人士に智識供給の機會を多く齎らすであらうが、十三日會には十三日會別箇の使命がある筈、時代の要求に合致しない處か、時代は益々斯かける修養機關の存立を渴望して居る。

五ヶ年計劃

購販聯合の協議

石城購買販賣聯合會では産業組合擴充五ヶ年計劃遂行の爲め來る廿八日午前九時より團體事務所樓上に協議會を開き左記案を協議する

匡救事業は

豫想外の進捗振り

石城郡下に於ける本年度匡救事業状況は平土木監督所の調査に依れば十七ヶ町村中既に竣工を告げたるもの過半数で二月末までには港灣を除いて全部の竣工を見る豫定で豫想外の進捗ぶりに同所では喜んでゐる

磐女二部受験

磐女二部受験 磐女の師範二部受験生二十二名は本日より三日間行はれる入學受験の爲め昨日淡路教諭引卒の下に平發午前九時に出發した

全國の燃料業者

淺野會館に集る

常磐石炭鑛業會では商工省燃料研究會總會を五月三日内郷村磐淺野記念館に開催する事になつたが當日は全國の燃料關係者六十餘名が出席研究發表講演等が行はれるので各炭礦では此が準備の爲め委員を選出した

優良船員を表彰

小名濱漁業組合で

小名濱漁業組合では去る十六日午前十時より同町小學校に於いて昨年度優良船員として左記十四名を表彰し記念品を授與した

幸野師範主事來郡

郡内六小學校を視察

本縣視學委員男子師範學校附屬主事幸野岩雄氏は來る三月一日より六日間に亘り郡内各小學校の視察を行ふ爲め來郡される視察日程は左の如くである

△大館三六吉田留吉(五七)

△鎌田町七小野新平氏長男哲夫

△回死 亡

△平町 人事

△回出 生

△本村科醫院

平町五丁目橋際 電話九〇三番

美味! 芳醇! 宗正らひた 山崎合名會社 電話一〇番

新學年の御用意 ランドセル (十三種) 手提カバン (十三種) マルモト柴田書店 電話 二五九七

一冊の代金で 御希望通りな 五冊の雜誌が 自由に讀める 川崎同文庫 電話六三〇番 (申込次第規則書進呈)

帶劍付の賊

懲役五年言渡

既報双葉郡瀧田村大字上繁岡字中ノ平二四生れ目下住居不定無職前科五犯大和田庄之助(四)が去る十三日午前二時半頃

第一校の耐寒行軍

愈々明日決行

泉小學校より窃盗した青。訓練所用の指揮刀を携へ湯本町字天王崎三〇雜貨商川俣余吉方の硝子窓を破つて忍び入りバット五十ケ入四箱、朝日二箱、曉一箱、數島百ヶ、衣類等合計約五十圓分を窃盗追走せんとしたが家人に

発見され 指揮刀を其場に置き品物のみ持つて逃走した窃盗事件の公判は去る十七日午後二時より平區才判所に於て關口判事係り三堀檢事立會の下に開廷事實訊問の上

檢事より 懲役六ヶ年を求刑されたが判事より即決懲役五ヶ年を言渡された

平小川間乗合が

昨年よりも大増収

舊正二日の運轉成績

平町小川村間乗合自動車を経営する芹澤、菊地兩自動車店では去る舊正月二日の買初當日附近平窪赤井等

よりの乗客が例年より多く兩店共七臺づゝ自動車を運轉したが昨年は一、一臺平均十八圓位の収入を擧げた

草野青訓で 草野村訓練旗新調 青年訓練所では二十一日夜同村小學校で映畫會を催しその純

益を以て皇太子殿下御降誕記念として青の訓練旗を購入することに決定した

小名濱の

魚獲成績

最高は鯉

小名濱町漁業組合に於ける昨年度中の主要漁獲高は合計八十五萬五千六百八十八圓で最も多いのは鯉の三十七萬五千九百三十二圓である

と因に各漁獲高は左の如くである(單位圓)
たひ二〇、二七〇 いらめ二二、一九七 まぐろ六、五六一 めじ一、五三八 かじき八二〇 びんが二九、三九〇 かつ

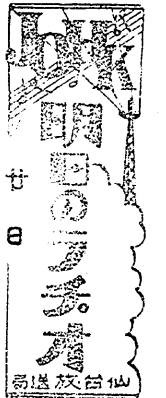
人妻、戀の逃避行

買初めにかこつけ

若き燕を抱いて家出

好間村字椎木平居住高橋金松妻キチ(三)は去る舊正月二日の買初めに平町に出た儘歸宅しないので心當りを捜査した處亭主の知らぬ間にキチは赤井村福島炭礦の坑夫齋藤春吉(三)と云ふ若い燕を作り買初めに平町で逢引きして行衛を晦した事が判つたので亭主金松は昨日カン／＼になつて平署に兩名の捜査方を願出た

湯本消防出初 湯本町消防組では本十九日午前九時より消防出初式を行つたが小名濱消防組では廿一日午前九時より行ふと



今晩の部
後六、〇〇 子供ノ時間
お話「私はアルミニウムです」佐藤知雄
後六、二五 英語講座(二ノ六)(終)講義弘正雄
後七、三〇 運動講座
後八、〇〇 マンドリン合奏アルモニアマンドリン
を三七五、九三二 ぶり
五、四一九 すゞき四、〇
九八 いわし二九八、二
七四 さんま三七、八三
〇 さば二二、四八七た
二三一、二九六なまこ九
〇五六

今晩の部

オーケストラ
後八、三〇 浮世節 立花家橋之助立家橋次
後八、五〇 沖續講談「小金原の仇討」第一席 一龍齋貞山
後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組預告

明日の部

前七、〇〇 基礎獨語講座(十八)橋本忠夫
前九、一〇 料理献立「マチロット發表」朝倉長吉
前一〇、三〇 婦人講座「妻の法律上の地位に就て」法學士 赤羽美智子
後〇、〇五 合唱とピアノ三重奏同志社ブルームロークラブ
後二、〇〇 家庭大學講座「新日本の描き方」五望月春江
後五、〇〇 東北民俗行事講座「水掛祭に就て」龜掛

川英吾
後五、三〇 受験講座「和文」英岡田實磨
後六、〇〇 子供の時間「名作物語」東京放送電話劇協會
後六、二五 言葉の講座(第十一講「春の發音」)神保格趣味講演の夕日本刀を語る
後七、三〇 古刀の話「本阿彌光遜刀の魂」本山荻舟
後八、五、連續講談「小金原の仇討」(第二席)一龍齋貞山

係各區に通牒を發したが任期満了者左の如くである(區長)田町石坂鏡太郎 仲間町吉田鎮政(區長代理)田町島田藤吉 二丁目關内彦太郎 新川町薄葉己之松 材木町鈴木要七 鎌田志賀兵吉

踏倒酌婦

平驛で捕る

内郷村字綴飲食店山形屋車長谷川運太郎方で去る十五日宮城縣、河原町字小路町生れ仙吉長女太田テル(三)を前借百圓で抱へ入れた處昨十八日朝女は前借を踏倒して逃走したとの届出により平署で手配中同日午後三時半頃平驛待合室で取押へた

西光寺を再建

鹿島村字走熊の西光寺は昭和四年火災に遭ひ其後假建の儘であつたが今回同寺檀徒有志が協議の結果工費五百圓を以つて庫裡を新築すべく縣へ申請した

江名分團總會

江名町青年團の北町南町辻三町分團では去る十七日總會を同町小學校に開き役員の改選を行つた

平職業紹介所報告
回人を求める方
自動車運轉手 廿前後
高卒 給料面談
漁業雜役 二十迄 月五圓 外面談
△女中 二十三迄 尋卒 給料面談
△小使 四十迄 日給七八十錢
回職を求める方
△小使 五十三才 尋卒 給料面談

裁判所たより

△既報去る十六日豫審終決陪審裁判に附された好間村大字上好間小川五郎氏方居住茨城縣生れ坑夫寺門次郎(三)に對する殺人未遂及び爆發物取締銃砲火藥類取締違反事件は本日陪審裁判を辭退したので近日平支部に於いて中島才判長係りの下に公判を開廷する事になつた

草野校學藝會

草野小學校では二十六日午前十

市原醫院
平町 田町
電話一四番
△事務員 二十八才 高卒 給料面談
△牛乳配達 四十七才 高卒 給料面談
△店員 五十五才 尋卒 給料面談

銘劍秘刃録

【禁断轉載上演映畫】

寶井馬琴演
山本英春畫

第六十回 徳川家に崇る村正

なにか……二十五兩

或る日茂兵衛が五左衛門

に向つて

茂「エ旦那様、改まつて少

しお伺い致したいことがご

ざいます」

五「何だ」

茂「外ぢやございせんが

此の間娘から一寸聞きませ

と、何かあの娘の奴を、且

那様が江戸へお連れ下さつ

て、奥様にして下さるとか

でございませぬが、親の目か

ら見ても化物の様な娘のお

ぢか、殊に身分のいやしい

獵師の娘、旦那様が何で奥

様にし、下さる筈がない一

時の御座興に仰言つたので

ございませうと私は思ひま

すが、旦那様如何でござい

ます」

五「五左衛門も心中に愈々來

たなと思つたが、覺悟の上

だから別にまごつきもしな

い

五「いや茂兵衛、決して座

興ではない、先日申す通り

女的美醜のことを兎や角

申すは浮れ男で、眞實ある

ものは顔などはどうでも構

はん、心の美しい者こそ眞

の美人、お前達親子は私に

とつては再生の恩人、殊

娘が一通りならぬ親切私に

五「左様な心配は致さぬが
宜い」

茂「有難う存じますそれは

そうと旦那様は失禮ながら

どういふ身分でいらつしや

いますか」

五「拙者か、拙者は……」

と言つたが眞實の事は云

へないから、ふと思ひ付い

て

五「拙者は天下の旗本五百

石を領する中野源太郎と申

す者だ」

茂「ア、左様でいらつしや

いますか、お旗本の奥様に

なれるなどは、娘は何ん

といふ仕合せ者でございま

せう」



分りませぬ、實は旦那様が

一時の戯れだと仰言つたら

お氣の毒ながら旦那様を鐵

砲で撃ち殺し、私も死ぬ覺

悟で居りました」

五左衛門驚いた、そんな

事をされては堪るものでは

ないと思ひながら

て一大事、身体も直つたか

らもう逃げ出さうと思つた

から

五「コレ茂兵衛色々厄介に

なり、お蔭で身体も本復し

たから、これより江戸へ立

ち戻らうと思ふ、娘は江戸

より人を以て迎へに參るか

らそれ迄預つて置いてもら

いたい」

といふのを茂兵衛が

茂「イヤそれはいけません

旦那様のお言葉に間違はご

ざいますまいが年を老ると

誠に氣短になるもの此の

娘を手許に置いては安心

が出来ません、女でこそあ

れこの山の中に住つて居る

娘で江戸の娘さんの様に足

弱ぢやアございませぬ、殊

によつたら旦那様より足が

達者かも知れませぬ、どう

か迷惑でも連れを願ひます

……」

五「イヤ迷惑といふ譯では

ないが、突然我家へ連れ戻

るといふ譯にもいかんから

一應親類その他へも話をし

て、その上迎へを寄こさう

と存じましたか」

茂「もう娘もお供をするつ

もりで此の間から支度をし

て、荷物等も出来て居りま

す、それに本人、身附の金

何かの用意にと、二十五兩

の金子も渡してございませ

……」

五「ナニ、二十五兩……」

茂「ハイこれだけは娘に譲

つてやらうと存じまして苦

しい中でも手放さずに持つ

参り親類へでも一時預ける

といふことに致さう」

茂「どうかさういふ事にて

もお願ひ致します」

五「荷物は何だ、長い道中

だから餘り澤山でない方が

良い、衣類などは江戸へ參

ればいくらでも買つてやる

しその他の諸道具などは別

にいらん、着替への一二枚

もあればそれで宜い」

茂「ご尤もでございませぬ

れぢや旦那様お立ちで」

五「思ひ切つたが吉日とい

ふから今日立とう」

茂「それぢやおぢか、早く

支度をしな、ぢや宜いな昨

夜も話した通り旦那様に

嫌はれない様に氣を付けろ

……」

何やかや注意をするも親

の情おぢか嬉しくもあり

只一人の父親に分れて江戸

へ行くのが悲しくもあり、

悲喜交々でそこへ支度

をいたし、茲に二人が連れ

立つて飯内村を出立する。

米國製刺皮膚病良藥
レメドール

ヒビ、シモヤケ、ハタケ

ヤケド、キリキズ、タム

シ

子宮病、根切藥、下腹や

腰の痛みをなほす事妙な

り

丹波博士創製セキドメ

宮 温 湯

うまくてセキがヨクトマ

たんばあめ

ユビハレ、ヤケド、キリ

キズ、淋病、梅毒、乳ハ

レ、すべて化膿したものを

を切らずに癒る

靈藥ムテキ

平町古鍛冶町一〇

阿 康 藥 舗

縣社ノ下 電話四四番

專門 内科一般

宅診 内科は何でも診療致します

往診 呼吸器病ばかりではありません

平町南町六五

川井内科診療所

電話一八一番

醫學士 川井重之

女 醫 川井安子

お醤油は

ヤマフル

醬油味噌

たひら 正宗

鯉節 食料品

金山崎合名會社

福島縣平町電話營業部三醸造工場三七
明治生命磐城代理店 山崎與三郎